

## 献呈の辞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: OJIMA, Shigeki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00061460">http://hdl.handle.net/2297/00061460</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 献呈の辞

立石英生教授、野坂佳生教授は、令和3年3月をもって金沢大学を退職されることになりました。金沢大学法学系教員一同は、お二人のご退職を心からお祝いし、金沢大学の教育・研究、運営へのご貢献に感謝し、本論文集を献呈申し上げます。

立石英生教授は、中央大学法学部をご卒業後、民間会社及び法律事務所勤務を経て司法試験に合格され、司法修習生となられました。その後、検事に任官され、東京地方検察庁を皮切りに、各地の検察庁に勤務され、また預金保険機構の特別調査役をご経験されました。平成28年3月、名古屋高等検察庁金沢支部支部長を最後に検事を退官され、同年5月に、金沢大学大学院法務研究科の刑事系実務家教員となられました。検事としての最後のご勤務地が金沢であったことで、金沢大学とのご縁が結ばれたものと思います。

立石教授は、法科大学院の刑事系実務科目「刑事訴訟実務の基礎」、「法曹倫理」、「模擬裁判」を主にご担当され、実務教育にご尽力されるとともに、法科大学院の最終学年に配当されている刑事系の仕上げの科目「刑事法総合演習」により、学生を司法試験へと送り出す役割を担われました。

立石教授の授業は、優しい口調の中にも時に現れる厳しい叱咤からうかがわれるように、法曹の厳しさを随所に示すものとなっています。立石教授の薫陶により、司法試験合格への道が開かれた学生も数多くいます。

野坂佳生教授は、東京大学法学部をご卒業後、司法試験に合格され、司法修習生を経て、弁護士となられ、福井において永らく活躍してこられました。

21世紀の訪れとともに本格化した司法制度改革に伴い法科大学院制度が創設されることとなり、金沢大学はその設置の検討を始めました。金沢大学法科大学院は「地域に根ざした法曹教育」をその設置理念としましたので、石川、富山、福井の北陸三県を地元と捉え、その弁護士会と連携することとしました。野坂教授は、福井弁護士会所属の弁護士として金沢大学法科大学院設

置準備の初期から積極的に参画され、平成16年4月、法科大学院の設置と同時に民事系実務家教員となりました。主な担当科目は、「民事訴訟実務の基礎」、「模擬裁判」、「エクスターンシップ」、「クリニック」でした。「民事訴訟事務の基礎」は、多くの法科大学院では、要件事実教育に特化したものとなりがちですが、野坂教授の授業では、もちろん要件事実について非常に分かりやすく扱われますが、加えて、時にはローマ法に遡るような学理的な解説もあり、研究者以上に研究者的な授業をされていました。また、特に「法教育」のあり方の検討に大きく寄与され、それに関する論稿を多数発表されています。野坂教授が開設された授業科目「法教育実習」は、その実践ともいえます。

野坂教授は、ご定年まで時間を残しておられますが、長年、福井から金沢へご通勤されてきたこともあり、この度、退職されることになりました。私たちは、17年間に及ぶ野坂教授の金沢大学へのご貢献に感謝し、本論文集を野坂教授にも献呈することとしました。

法科大学院を取り巻く環境が厳しさを増す折り、お忙しい弁護士業務にもかかわらず、お二人の先生方からいただいた金沢大学及び教員・学生へのご指導、ご貢献は、何事にも代えがたいものであったと思います。

立石英生先生、野坂佳生先生のますますのご健勝とご活躍を祈念し、謹んで「金沢法学」を献呈させていただきます。

金沢大学大学院法学研究科長・法務専攻長  
尾 島 茂 樹